

PAT-NO: JP358194626A
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 58194626 A
TITLE: CAR RAIN SHELTER HOOD DEVICE FACILITATING
ENTRANCE AND EXIT DURING RAINFALL
PUBN-DATE: November 12, 1983

INVENTOR-INFORMATION:
NAME
TANAKA, MASATSUGU

ASSIGNEE-INFORMATION:
NAME COUNTRY
TANAKA MASATSUGU N/A

APPL-NO: JP57077292
APPL-DATE: May 9, 1982

INT-CL (IPC): B60J007/00, E04F010/00
US-CL-CURRENT: 296/99.1

ABSTRACT:

PURPOSE: To prevent a person from getting wet when getting in or out of a car during a rainfall by providing a hood opened or closed by use of the opening/ closing force of a door at the upper section of a push door.

CONSTITUTION: A hood storage section 2 is provided on the side or the roof of a car 11. A storage unit comprised of bearings 5, a shaft 6 and a spring 4, and a hood 1 being wound in a fan shape is provided in the storage section 2. A connecting fixture fitted to the tip of the hood 1 and is fixed with a stopping fixture 9, to which door connecting fixtures 7 are provided. When a

door 10 is opened, the hood 1 is exposed in a fan shape, and when the door is closed, the hood 1 is automatically wound. Door connecting fixtures 7 are removed from the door when not in use and are fitted only when in use.

COPYRIGHT: (C)1983, JPO&Japio

⑨ 日本国特許庁 (JP)

⑩ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報 (A)

昭58—194626

⑪ Int. Cl.³
B 60 J 7/00
// E 04 F 10/00

識別記号

庁内整理番号
6927—3D
7521—2E

⑬ 公開 昭和58年(1983)11月12日

発明の数 1
審査請求 未請求

(全 3 頁)

⑭ 降雨時の出入りを容易とした車両の雨避け底装置

⑯ 発明者 田中正嗣

鹿児島市五ヶ別府町4021—95

⑰ 出願人 田中正嗣

鹿児島市五ヶ別府町4021—95

⑱ 特 願 昭57—77292

⑲ 出 願 昭57(1982)5月9日

明 細 書

1. 発明の名称

降雨時の出入りを容易とした車両の雨避け底装置

2. 特許請求の範囲

(イ) 該車両の押し開きドアの上部に、ドアの開閉力を応用して開閉する庇(1)と、

(ロ) 庇収納部(2)と、

(ハ) 庇収納装置(3)とから構成され、該車両における降雨時の出入りを容易とした車両の雨避け底装置。

3. 発明の詳細な説明

この発明は、降雨時の車両出入りに使用する雨避けの庇に関するものである。

従来、使用されている車両には、降雨時に使用する車両用庇が設けてなく、小雨を含めて降雨時に雨具等の装身準備に不便であった。

つまり、雨具が例えば傘である場合、

(イ) 車両内で傘を開いてから車外に出る

ことができない。

(ロ) 車外で傘を開いてから車外に出る場合、ドア等が障害となり一旦雨濡れを覚悟しなければならず不便である。

つづいて雨具が例えばレインコートである場合、

(ハ) 車内でレインコートの装身は空間が狭く不便であり、

(ニ) 車外で装身する場合でも一時的な雨濡れは覚悟しなければならず、

いずれも不便であった。

本発明は、以上の如き欠点を解決するために発明されたもので、以下これを図面について説明すれば、

(1) 車両(11)の屋根面の側部に庇収納部(2)を設ける。

(2) 収納部(2)に庇出入り口(14)を設ける。

(3) 収納部(2)の内部に径の大小により、庇(1)が扇型に巻き取ること

ができる巻き取り口(3)と、軸(6)と、軸受け(5)と、巻き取りパネ(4)で構成された収納装置を設ける。

(4) 扇型に形成された底(1)に水平安定板(13)を装着する。

(5) 底(1)を巻き取り口(3)に均等に巻きつけ、収納部(2)の内部に装着する。

(6) 内部(15)に装着された収納装置は、軸受け(5)(5)のみが収納部(2)に固定し、軸(6)及び底巻き取り口(3)が回転する。

(7) 巻き取りパネ(4)(4)は、軸受け(5)(5)及び軸(6)(6)に固定し、底(1)の巻き取り動力となる。

(8) 底(1)の先端に接続金具(8)を取りつけ、止め金具(9)で固定し、
*接続金具(8)の先端にドア接続用

金具(7)を設ける。

(9) ドア(10)を押し開くと底(1)が扇型に露出され、ドアを閉めると自動的に底(1)が巻き取られて収納する。

(10) 不使用時は、ドアから接続金具(7)を外し、使用時のみ装着する。

以上の如く構成されたものであるから、これを実施せんとする者は、

(イ) 収納部(2)をドアの上部に設けることができ、

(ロ) 収納部(2)を車両(11)の屋根の内部に収納することもでき、

(ハ) 底(1)の収納方法を巻き取りに限定せず引き出し方法による実施方法もあり、

(ニ) 巻き取りパネ(4)(4)の応用も、板パネ、ゴムパネ、モーター等による復帰方法による実施例をあげることができる。

さらに応用効果として、

(ホ) 仮眠時の日よけ、

(ヘ) 降灰対策用庇、

(ト) ドアの自動開閉補助器具、

等の効果がある。

従って本発明の出現は誠に意義がある。

4. 図面の簡単な説明

第1図は、本発明の実施例を示す斜視図。

第2図は、本発明の巻き取り装置を含めた要部斜視図。

(1) は底

(2) は底収納部

(3) は底巻き取り口

(4) は巻き取りパネ

(5) は軸受け

(6) は軸

(7) はドア接続金具

(8) は底接続金具

(9) は止め金具

(10) はドア

特許出願人 田中正嗣

